

# KLIS TODAY

No.  
33

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 2017 年度大学説明会を終えて

三浦 真帆

私たち知識情報・図書館学類大学説明会委員会は、学類の1・2年生で構成されており、夏に行われる大学説明会の運営を担っています。今年度は8月5日土曜日に筑波大学春日エリア内で大学説明会が行われ、たくさんの来場者に学類の魅力を発信することができました。

学生が自分の目線から各種受験の特徴や、筑波大での生活について語った学生トークでは、学類の1年生6名がそれぞれの体験談を語りました。高校生の質問に学生が一对一で答える質問コーナーでは、質問者の相談に親身になって答える学生の姿が見られました。キャンパス内を解説しながら回るキャンパスツアーは、参加希望者が列を成すほどの大盛況でした。昨年からの企画を引き継いだ「知る見る図書館」では、ビブリオバトルや海外インターンシップのプレゼンテーションで、図書館や本に関わる知識情報・図書館学類の特色を紹介しました。模擬講義、オープンラボは先生方のお力も借り、知識情報・図書館学類での学びを肌で感じることもできる企画になったと思います。

説明会に参加する高校生や保護者の方々は、何を知りたい、見たいと思っているのか。私たちはそれを考え、企画を練っています。私は3年前、高校二年生の時に知識情報・図書館学類の大学説明会に参加し、この学類で学びたいと強く思いました。それは、学類のカリキュラムに興味を持った他に、スタッフとして生き生きと活動する学生の方々の姿に感動を覚えたからです。今回、大学説明会の運営を経験し、学類の魅力を最も伝えるのは学生の笑顔なのではないかと思いました。

最後に、ご協力いただいた、たくさんの先生方、スタッフの皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。来年度以降も大学説明会委員会を宜しくお願い致します。

(みうら・まほ 知識情報・図書館学類2年次)



歳森学類長による説明の様子



## 知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞

今年度は廣田美香さん、染谷公美さん、土屋寛真さん、小川航平さんを含む6名に「知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞」が贈られました。この演習は図書館情報学の基本を学びながら、その検索システムである OPAC (Online Public Access Catalog) の構築を行います。今回は4人の受賞者に作品について語ってもらいました。

廣田 美香

私は、この知識情報演習Ⅰを履修している間、不安で仕方ありませんでした。1年生のときに履修したプログラミングの授業もついていくのがやっとで、ましてや、OPAC を自分の手で作るなんて無理だ!とっていたからです。実際に授業を受けて、どれだけ予習復習を行っても、自分でできることの範囲はとても狭かったです。私が、この課題で賞をいただけるようなものを作ることが出来たのは、昨年この授業を履修していた先輩や、プログラムが得意な先輩の手助けのおかげだと思います。その先輩方がヒントを下さったので、詳細な検索が出来るようにしたり、CSS を使ってきれいなデザインにしたり、リンク付けを工夫して利便性を考えたり、ロゴを Illustrator で作ったり…と、自分がこうしたい!とっていたことをほとんど実現させた OPAC を作ることが出来ました。

(ひろた・みか 知識情報・図書館学類2年次)



廣田さん(右)

染谷 公美

私は OPAC を組み上げる中で、ビジュアル面を重視しました。情報量がほとんど指定されているともいえる中で、利用者がより見やすく、使いやすく感じられることは多くの人にとってかなり重要であると考えたからです。具体的には、OPACの検索ページでは背景に写真を用いたり、フォントや色などで「おしゃれだな」「使いやすいそう」というイメージを与えることを目標としました。また、検索結果表示ページでは、ただ情報を羅列するのでは読みにくく、使いにくいと感じてしまうと思い、折り畳み機能を組み込み、より見やすく、利用者が欲しい情報を見つけやすくしました。

今回、ビジュアル面では課題の要項の範囲内では納得のいくレベルに届きましたが、検索システム自体は最低限の簡潔なものとなってしまうので、そこが心残りです。

(そめや・くみ 知識情報・図書館学類2年次)



染谷さん(左)

土屋 寛真

私が OPAC を作る上で最も時間を割いたポイントはデザインです。トップ画面となる検索ページでは背景を薄いグラデーションとし、サイト全体を落ち着いたイメージにしました。説明文などのテキスト量を極力減らし、リンクもマウスカーソルに合わせて動きを持たせることで、ユーザが操作中に少しでも楽しいと思ってもらえるような工夫を施しました。また、設計者が指定したフォントが利用者の端末にインストールされていない場合、表示が意図したデザインと大きく変わってしまうことがあります。WEB フォントを活用することでこれを解決しました。

機能面ではおおよそ満足に実装できたものの、最も利用者が多いと思われるスマートフォンに対応するページの制作や、セキュリティ対策など課題もいくつか残りました。

(つちや・ひろま 知識学類・図書館学類3年次)

小川 航平

OPAC を開発するときにユーザがどう感じるかを考え、開発を進めました。特に子供連れの親が子供に本の楽しさを伝えられるような場面を想定し、子供に親しみをもたれやすい、優しい UI にこだわりました。ボタンの角を丸くしたり、言葉じゃなくてできるだけ視覚的にわかるように画像を用いたり、色合いを優しくポップな感じにすることで体裁を整えました。また、詳細検索を通して、より詳細に検索できる機能も実装しています。

このデザインだけにこだわった OPAC がまさか最優秀作品賞に選ばれるとは思いませんでした。また、CGI でのプログラミングは初めてだったため、とても良い経験となりました。これからは Web フレームワークを用いて開発する能力が求められるため、ruby では rails、python では django 等の知識を深める必要があると感じました。

(おがわ・こうへい 知識情報・図書館学類3年次)



土屋さん (左) と小川さん (右)

## 国際インターンシップ体験談

知識情報・図書館学類では、海外の図書館や情報センターにおいて図書館・情報業務を経験する「国際インターンシップ」(3・4年次を対象とした専門科目)を開設しています。2017年度は3名が参加し、その方々に自分の体験について紹介してもらいました。

穴倉 基文

2017年9月、ドイツでの国際インターンシップに参加しました。南ドイツの州立図書館、公共図書館、6つの大学図書館に訪問させていただきました。

情報を扱う専門職の方から直接学ぶことができた日々は非常に刺激的で、貴重な経験となりました。特に情報技術の発展に対する各図書館の取り組みは様々で、今後の図書館や図書館員について現在の姿を学びながら考えることができました。例えば、KIT 図書館では埋もれていた巨大な研究データの世界的な共有基盤を運営していました。一方で Mannheim 大学図書館では先進技術を積極的に取り入れてコミュニケーションを活性化する場をデザインしていました。

また、現地での生活やコミュニケーションを通してドイツの文化の理解も深まったと感じます。国際インターンシップ担当の先生方、ドイツで受け入れていただいた図書館の皆さまに感謝いたします。

(ししくら・もとふみ 知識情報・図書館学類3年次)

下野 幹弥

私は2017年9月8日から9月26日までの19日間をかけて、ドイツの大学図書館、州立図書館、公共図書館を含む計7つの図書館を訪問してきました。バーデン＝ヴュルテンベルク州の州都シュトゥットガルトを拠点として、南ドイツの様々な都市の図書館を見学し、どの図書館にもそれぞれ固有の役割と業務があることを学びました。私がこのプログラムに参加したのは、英会話やプレゼンテーションの自信をつけるためでした。ドイツのインターンシップでは訪問先の各図書館でほぼ毎回というほどプレゼンテーションを行ったため、英語での質疑応答に何度も苦戦させられましたが、とても良い経験ができたと思います。限られた時間の中でこれだけ多くの刺激を受け、出発前の想像をこえるような学びにつながりました。改めて、担当して下さった先生方、ドイツの図書館員の方々に深く感謝いたします。

(しもの・みやき 知識情報・図書館学類3年次)



マンハイム大図書館で発表をした様子

川畑 孝平

私は、2017年9月に、アメリカ、ピッツバーグ大学のヒルマン図書館に受け入れて頂きました。ヒルマン図書館内の1セクションである East Asian Library で様々な経験をさせて頂きました。1つ目は、北米の日本研究司書グループが作った「社史 Wiki Project」に関する作業です。ちなみにピッツバーグ大等の北米の大学では、研究資料として、日本企業の社史を多く所蔵しています。2つ目は、多巻本（シリーズ本）の各巻の情報を、各種データベース等から収集して OPAC へ登録する作業です。その他、テクニカルサービスの見学や、公共図書館で行われる日本語講座への参加等をしてきました。

今回のインターンシップを通して、現地の大学生の図書館利用や、日本ではあまり普及していないサブジェクトライブラリアンの実態、英語でのコミュニケーション等について、様々な収穫を得ることができました。最後に、グッドさんをはじめとするヒルマン図書館の方々、国際インターンシップ担当の先生方、応援して下さったすべての方に感謝いたします。

(かわばた・こうへい 知識情報・図書館学類3年次)



ピッツバーグ大学ヒルマン図書館

## 海外留学体験談

筑波大学では、世界各国からの留学生を積極的に受け入れるとともに、海外に留学する学生を全面にサポートしており、国際交流を促進しています。今回は2名の海外留学経験者に体験談を紹介してもらいました。

猪野 美晴

私は、2017年3月から7月までの5ヶ月間、ドイツのボン大学に留学しました。ドイツの大学ではプレゼンテーションがよく行われ、私も日本について何度かプレゼンテーションをしました。またボン大学には世界中から留学生が集まるので様々な国の人と交流を持つことができ、刺激を受けました。

そして休日にはヨーロッパ各国を訪れました。今ではこの5か月間はかけがえのない時間だったと感じますが、留学の決意が固まるまでは時間がかかりました。その一番の理由は留学費用です。しかし、筑波大学には様々な奨学金制度があります。私も筑波大学から給付型の奨学金をいただきました。社会人になってから留学することはなかなかできないと思います。大学生の間にしかできない留学という貴重な体験を、皆さんもしてみませんか。



みんなと楽しく交流した私（前列右から3番）

(いの・みはる 知識情報・図書館学類4年次)

進 華奈子

私は2016年9月から2017年7月までの約1年間ドイツ西部に位置するドイツ第4の都市ケルンに留学していました。現地では今年から始まったCologne Global Study Programを主として英語によるヨーロッパ社会の政治、経済、文化や歴史などを勉強していました。また、ドイツに行く前には全くドイツ語が話せませんでした。1年間を通してドイツ語の授業を履修していたので今ではB1レベルを修了し、日常会話程度まで話せるようになりました。

私は中学生の頃から長期留学をしたいという夢をずっと持っていたので、ドイツでの生活もせっかくの貴重な機会だと毎日自分に言い聞かせ、充実させるように努力していました。そのため今では世界中に多くの友達ができ、今すぐにでもドイツの生活に戻りたいと思いながら春日キャンパスに通っています(笑)。



楽しい日々

(しん・かなこ 知識情報・図書館学類4年次)

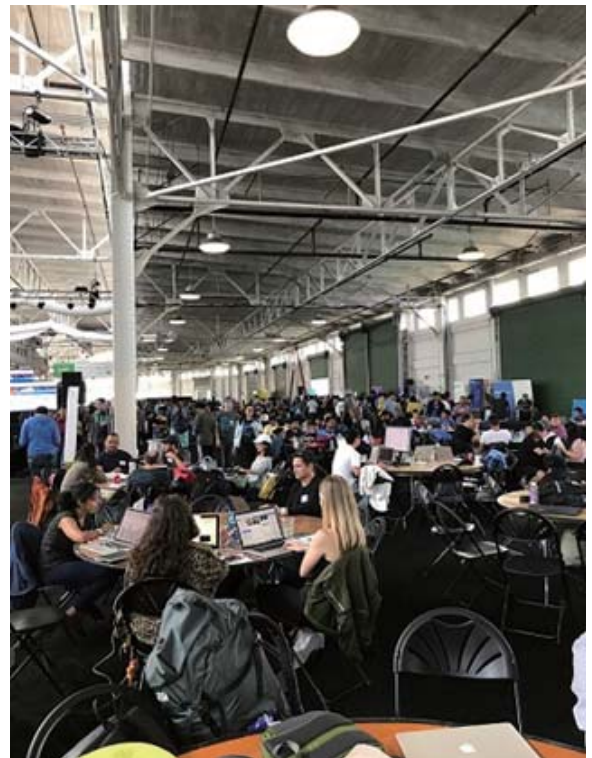
## 海外研修体験談

土屋 寛真

2017年9月11日～25日の14日間、私は情報学群の助成を受けアメリカ合衆国カリフォルニア州のシリコンバレーと呼ばれる地域へ研修に行ってきました。今年度より始まったこの助成プログラムは情報学群生を対象とし、広く情報分野に関して自発的に学ぶことを支援する目的があります。研修の内容を全て学生が企画することが条件であり、特徴でもあります。私はロサンゼルスとサンフランシスコを研修先として選択し、研修内容を Open Source Summit の見学、Disrupt SF 2017 Hackathon への参加、および企業見学の3つとしたプランを立て、助成対象者として採用をいただきました。

私が立案した研修企画の中で最も不安だったハッカソンイベントは16日～17日にサンフランシスコで開催されました。アメリカの大手インターネットメディアである TechCrunch が主催する世界的に見ても非常に大規模なイベントです。なお、ハッカソンとはハック (hack) とマラソン (marathon) から成る造語であり、決められた期間に集中的な開発をチームで行い、そのアイデアの新規性や完成度を競う大会を指します。本大会では開発時間が24時間に定められており、約1分のデモで成果物の発表を行います。私は現地の大学に通う日本人留学生と共に合計4人のチームを形成し、大会に挑みました。24時間という厳しい開発スケジュールの中、目的のアプリを完成させられた上、会場内のハッカーやスポンサーの方々とコミュニケーションをとることができ、疲れ果てましたが大会を楽しむことができました。

ここでは書き切れませんでしたが、Microsoft で働いている社員の方からオフィスを見学させてもらいながら仕事や採用について話をしてもらったり、本当に貴重な体験をさせていただきました。このような機会を与えてくださった大学関係者の方々に感謝申し上げます。



ハッカソンの様子

(つちや・ひろま 知識学類・図書館学類3年次)

## 学類誌 MILK 編集部

### 3年間の活動を振り返って

菊池 ゆとり

私は学類二年次の時に「知識情報・図書館学類誌 MILK」編集部に参加しました。それから三年間、編集長を経験し、さまざまなことを記事に書き、他の部員と交流し、「MILK」と共に成長してきたように思います。

私が参加したときの「MILK」編集部は、廃刊状態から先輩方が発刊体制を整えてくれたばかりで、雑誌の内容としても、編集部という一組織としても、まだまだ発展の余地があるといった状態でした。そこから、この編集部をどう発展させていくかということが、次の代で編集長になった私にとっては大きな課題でした。

まずは、編集部に人がいなくては始まらないので、「MILK」という雑誌の知名度向上に向けての活動をしました。例えば、ポスターを掲示したり、新入生オリエンテーションで「MILK」の宣伝機会を設けさせてもらったりしました。それと同時に、雑誌内容のクオリティを向上させるための活動もしました。また、編集に使用する Adobe Illustrator の使い方や写真の撮り方について



桜が咲いている春日キャンパス

も勉強し、学類の仕事を引き受けるかわりに、取材費を学類から出してもらえるように交渉しました。

そうした課題が解決に近づくにつれて、編集部部の部員たちのパワーもどんどんついてくるようになりました。編集部部の人数は10人以上までに増え、日本全国、あるいは世界中に旅した部員がレポートを記事にしてくれるようになりました。また、学類生の生の声を記事に反映すべく、学類生を対象にした記事をするなど、「MILK」の使命である、「学類生の、学類生による、学類生のための雑誌」に、どんどん近づいてくるようになりました。また、3年前から

の新たな試みであった「研究室紹介号」、2年前からの雙峰祭出店企画などが続けられているのも、頼もしい部員たちの力があつたからこそできたことだと思います。

私の在籍していた3年間で、「MILK」は、編集部員たちの力で十倍、二十倍にもパワーアップしていきました。私が卒業してからも、「MILK」が、「学類生の、学類生による、学類生のための雑誌」として、ますます親しみやすいメディアとして、発展していくことを願います。

(きくち・ゆとり 知識情報・図書館学類4年次)

Web: [http://klis.tsukuba.ac.jp/klis\\_milk/](http://klis.tsukuba.ac.jp/klis_milk/)

Twitter: @KLISMILK